2013年度 景観・デザイン委員会 第1回親委員会

議 事 要 旨

日時：2013年7月4日（木） 17:00～19:00

会場：土木学会 E・F会議室

出席者（敬称略）：

<委員>天野委員長、高橋委員、松井委員、松田委員（新任）、福井委員、石井委員（退任）、樋口委員（新任）、斎藤委員（新任）、山下委員、関委員、佐々木委員（新任）

<委員兼幹事>重山幹事長（新任）、佐々木幹事長（退任、委員の項に既出）、飯田幹事（新任）、福島幹事、伊地知幹事（退任）、大波幹事、横山幹事、上田幹事（退任）、山口幹事、木村幹事（新任）

<その他>デザイン賞小委員会：斎藤委員長（委員の項に既出）、椛木委員、高見委員
景観・デザイン研究編集小委員会：関委員長（委員の項に既出）、黒島委員
D1編集小委員会：山下委員長（委員の項に既出）、岡田委員、二井委員
防災・復興小委員会：佐々木委員長（委員の項に既出）、兼子委員

議題：

- 1) 委員長挨拶（天野委員長）
- 2) 新・旧委員および委員兼幹事紹介
- 3) 新幹事長挨拶（重山幹事長）
- 4) 各小委員会活動報告および今年度の活動について
 - ・研究発表会関連
 - ・防災復興小委員会
 - ・論文集関連
 - ・会計関連
 - ・デザイン賞関連
 - ・デザイン賞検討関連
- 5) その他活動について
 - ・デザイン賞パネルと国際デザイン学会での展示について
 - ・デザイン賞ビジュアルプレゼンテーション資料について
 - ・土木学会技術者資格制度について
 - ・学会による委員会活動評価結果
- 6) 意見交換

資料：

- ・議事次第
- ・資料1 委員会構成メンバー表
- ・資料2 研究発表小委員会資料

- ・資料3 土木学会論文集D1（景観・デザイン）分冊編集小委員会 活動報告
- ・資料4 会計報告
- ・資料5 デザイン賞選考小委員会 活動報告
- ・資料6 デザイン賞検討WG資料
- ・資料7 IASDR 国際デザイン学会出展 土木学会デザイン賞のパネルについて
- ・資料8 平成24年度委員会活動評価結果（学会本部による評価結果）
- ・資料9 平成24年度委員会自己評価（当委員会→学会本部に提出）
- ・資料10 3/13 拡大幹事会議事録

議事：

1 委員長挨拶

（天野委員長）今年度も懸案事項がある。本日は小委員会の方にも出席いただいているので、みなさんと議論したい。

2 新・旧委員および委員兼幹事紹介

- ・各委員が自己紹介を行った。

3 新幹事長挨拶

（重山幹事長）今年度から幹事長に就くことになった。これまでの経緯などよく分からないことも多いので、委員のみなさんに助けてもらいつつ、協力して進めていきたい。

4 各小委員会活動報告および今年度の活動について

1) 研究発表会関連

- ・黒島委員より資料2について報告された。

（黒島委員）本日の委員会では、今年度の研究発表会の参加費及び申込締切日について確認してもらいたい。

（関委員）資料にある研究編集小委員会の名簿は、まだメンバーに声をかけている状況なので、確定はしていない。東京工業大学の笠原さんは開催校の担当者になるので、その分の人員補充も必要になる。メンバーは3年間のローテーションでやっているの、新しい人を入れていきたい。また、民間からの論文発表数が減っているの、増やすための環境づくりに取り組んでいきたい。

（佐々木委員）論文発表数は、大学別でもみても偏りがある。第1回の研究発表会のみ参加した方にもピンポイントで参加依頼をしていきたい。また、論文発表数の目標を現在の50編から80編にしたい。

（松井委員）論文提出の締切はいつ頃か。

（佐々木委員）毎年9月上旬である。曜日を考慮して、締切日を検討してもらいたい。ところで、土木史研究発表会では、発表者が論文集（査読）に投稿予定であることを公表したうえで、会場で議論を行っている。また、優秀講演賞は当日のうちに審査と表彰を行っている。これらを参考にして開催方法を検討してもらいたい。ところで、金曜日のシンポジウムは誰が企画することになっているのか。

(関委員) 研究編集小委員会が担当すると負担が大きい。親委員会で企画を練ってもらい、小委員会で運営するのが理想である。民間の参加者を増やすことを目指して、ワークショップや討論会の開催などを検討している。親委員会に相談したい。逆に、親委員会からの企画案があれば議論したい。両者が案を出すのがよいと思っている。景観デザイン研究会の発足から 20 年が経過している。当時の状況と比べて変わったところ、変わっていないところを整理してみてもよいかもしれない。

(斎藤委員) 開催内容により必要な部屋が変わるので、早めに連絡してもらいたい。

2) 防災復興小委員会

(佐々木委員) 平成 24 年度は特に活動を行っていない。なにか企画があれば、提案してもらい、議論したい。

3) 論文集関連

・山下委員より資料 3 について報告された。

(二井委員) 研究発表会との連携強化について、D1 編集小委員会から直接個人に依頼するのは難しい。研究発表会のコメンテーターなどが、審査の表に「修正して論文集に投稿すべき」などと書ける欄を作り、発表者に依頼できないか。

(天野委員長) 司会からの推薦もありえる。

(関委員) 言葉による推薦がいいのか、それとも推薦状を作成すべきか。

(佐々木委員) A 部門 (デザイン作品部門) で発表する民間からの論文を主な推薦対象にするのがよいのではないか。

4) 会計関連

・大波幹事より資料 4 について報告された。

(佐々木委員) 学会の財政が厳しくなっていることを考慮した活動が必要になっている。

5) デザイン賞関連

・福島幹事より資料 5 について報告された。

6) デザイン賞検討関連

・福井委員より資料 6 について報告された。

(天野委員長) 現在の作品選集の形態を変えるだけの話であれば、小委員会で決めてもよいが、国土交通省の後援を得るのであれば、親委員会の了解が必要になる。

(福井委員) 国土交通省で後援について相談できる人を見つける必要がある。

(佐々木委員) 「G マーク」は経済産業省が後援していたのではなかったか。

(関委員) 以前は後援していたが、現在はやめている。

(佐々木委員) 国土交通省は既に様々な賞を運営している。デザイン賞の後援は了解されるのか。

(福井委員) 都市景観大賞は都市局の管轄なので、都市局以外に依頼できないかと考えている。新しい作品選集については、本日提案した方法でよいか。

(天野委員長) 新しい作品選集の掲載料 30,000 円は高くないか。それだけ払って応募しても、掲

載されないかもしれない。

(福井委員) 非掲載の対象としては、あまりにデザインの質が低いものだけを想定している。

(天野委員長) 本当に 50 作品も集まるのか。作品を集める作業や選考作業が必要になり、ワーキングの負担が大きくなるか。

(福井委員) 選考よりも選集の体裁を整えるのに労力がかかると考えている。ただその作業はデザイナーに外注するつもりである。コンテンツを揃えてあとはお願いする形になる。作品のタイトルや諸元、関係者などを書く部分の様式を決めて、そこに各作品の応募内容をはめ込んでもらう。

(斎藤委員) デザイン賞に関係のない作品選集を作った場合、建築やランドスケープ分野の人がこの選集に応募する動機は低いと思う。土木中心の選集になる恐れがある。

(佐々木委員) この提案では、作品選集に掲載されなくてもデザイン賞を受賞できる仕組みになっている。

(福井委員) そのルートでデザイン賞に応募されると、作品選集のルートよりも費用が安く済んでしまう。その点については検討する必要がある。

(松井委員) 平成 24 年度のデザイン賞の赤字は幾らなのか。

(佐々木委員) 約 10 万円である。応募数が増えれば黒字になるかもしれない。

(二井委員) 応募数が多くても、それぞれの作品について現地に見に行く必要があるので、一概に黒字になるとは言えない。

(天野委員長) 現地を見に行くのを 1 人にして、撮ってきた写真を使って審査する方法もある。そうすれば出費はかなり減る。

(佐々木委員) 学会賞に格上げしないと国土交通省のプロポーザルにおけるポイント化には繋がらないのか。

(福井委員) 国の立場からすると、今のデザイン賞でポイントにするのは難しいと思う。

(関委員) ポイント化の対象を建築・造園分野に広げていく方向で考えているのか。

(福井委員) 個人的な想いとしては、世の中の土木の仕事に対する意識が低くなっている。新しい作品選集を刊行することにより、もっと光が当たるようにしたい。

(佐々木委員) そのもその目的として、デザイン賞の応募数の維持を考えているようだが、デザイン賞のあり方に関する議論はしているのか。

(福井委員) その議論についてはあまり深めていない。デザイン賞はメッセージだと思っている。そのあり方を決めるのはこのワーキングではなく、デザイン賞小委員会の委員長ではないか。

(佐々木委員) 「G マーク」の知名度は高く、対象範囲を広げている。土木デザインも、各パーツのデザインの善し悪しなどはどの場で議論するのか。毎年の小委員会で行うべきか。

(二井委員) メーカー部門のようなものをデザイン賞の中に創設することも考えられる。

(松井委員) デザイン賞はなかなか審査に通らないのが魅力的でもある。審査の過程で行われている議論が面白いので、それを外に発信すべきである。土木デザインのファンは確実に増えているので、人気が発散するまで待つという考え方もあるのではないか。

(福島幹事) 受賞のハードルが高いという問題に対して、新しい作品選集によりある程度の解決を試みたい。また、選考過程における議論の内容の発信が不足していることは、ヒアリングでも明らかになっている。その意味で両面からの取り組みを行うことに意義はあると考えている。

(佐々木委員) 新しい作品選集については、デザイン賞とは別にして、研究発表会の CD に作品

データを入れるような方法はないか。

(福井委員) 発注者に伝わらないと意味がない。研究発表会の CD に入れても伝わらないのではないか。

(佐々木委員) 届けたい人には届くのではないか。現在でも国交省などには研究発表会について告知している。

(天野委員長) 新しい作品選集をつくるのであれば、応募作品を集めることや、作品を選考することに労力がかかるが、大丈夫か。景観・デザイン委員会の賞のままで国土交通省の後援をもらう、竣工後2年の応募条件を1年に短縮する、奨励賞の受賞の条件を下げるなど、今のままでも工夫できることはあるのではないか。

(松井委員) 応募する側にいるコンサルタントの社員としてデザイン賞に奨励賞が出来たことをとても嬉しく感じている。デザイン作品としての完成度は劣っていても、良いデザインを残そうとした努力に対して評価していただける可能性を感じるからである。全体としては優秀賞に届かないまでも部分的に頑張っている作品に光が当てられれば、応募作品も増えるだろう。どこが良くて、どこが足りていないかをコメントとして残せば、今後の指針にもなるのではないか？

(天野委員長) 奨励賞のハードルを下げて、課題として残っている部分についてはコメントで書く。景観・デザイン委員会の賞のままで国土交通省から後援をもらう。

(佐々木委員) 地方整備局単位で後援をもらってもよい。デザイン賞の中で新しい作品選集の運営を始めると、簡単にとりやめることはできない。別の枠組みでやるのがよい。

(二井委員) 現在のデザイン賞は受賞しても実利がないのが最大の問題である。デザイン賞小委員会の幹事は、作品の設計者などをお願いして応募してもらっているが、そうして応募された作品が審査で落とされてしまう。そのような苦労がいくらかでも緩和できないかと思っている。

(天野委員長) 国土交通省の後援を受けるのは前提として改善の方法を考えたい。まずは建設コンサルタント協会と国土交通省の話合いの場があるので、そこでプロポーザルの評点に反映できないかどうかを話題に出してもらうのがよい。

(二井委員) 土木学会の賞になって初めて田中賞と同列になり、国土交通省に後援を依頼できるのではないか。

(福井委員) 田中賞は後援を受けていない。土木学会単独で依頼するよりも、建築や造園学会と連携して依頼する必要があるのではないか。

(松井委員) 国土交通省から後援を受けるメリットは何か。コンサルタントの立場からすると、国土交通省の後援は魅力的なのか。

(椋木委員) 実際には、田中賞よりも局長表彰の方が仕事に繋がる。

(天野委員長) 後援を受けているので、プロポーザルの評点に反映してもらいたい、と依頼する流れにしたい。現在の賞について後援をもらった方が話は速い。

(高橋委員) デザイン賞の受賞経歴を国土交通省のポイントにしてもらうという発想自体が、土木的だと思う。造園学会の学会賞は、1年当たりの受賞作品数が3、4件であり、年によっては0の場合もある。作品選集は隔年の発刊である。造園業界全体の作品数が多くないことも関係している。最近では作品選集に掲載された作品が推薦されて学会賞で選考される。なお、奨励賞を受賞するためには作品選集に3回以上掲載されるのが条件となっている。

(天野委員長) 土木の仕事は公共事業が大半なので、ポイントは必要である。デザイン賞の知名度を上げる必要がある。もっと楽にやる方法はないか。

(岡田委員) 以前、デザイン賞を隔年で開催することについて議論したことがある。

(高橋委員) 作品選集は、世の中の土木デザインに対する意識を高めるのに繋がるメディアとして考えられないか。発刊を積み重ねると、デザインの傾向も見えてくる。土木のデザインを語るメディアは無いので、有効ではないか。

(天野委員長) 研究発表会の作品部門で発表されたものをまとめて選集として出す方法はある。

(佐々木委員) ポスターセッションのポスターも同じくまとめるとよい。

(天野委員長) 今日出た意見を踏まえて、デザイン賞選考小委員会・委員長の斎藤さんとも相談して、デザイン賞検討WGを中心に引き続き考えてもらいたい。

(重山幹事長) 竣工後の年数については、竣工直後でも応募できるようにして、5年後に経過を見に行く方法もあるのではないか。

5 その他活動について

1) デザイン賞パネルと国際デザイン学会での展示について

・山口幹事より資料7について報告された。

(佐々木委員) IASDR は芝浦工業大学で開催され、インテリアデザインや感性工学の作品などが出品される。その中で土木デザインについてもセッションを設けてもらっている。今回作成するパネルは、今後の展示でも使えるようにしたい。

2) デザイン賞ビジュアルプレゼンテーション資料について

・関委員より PC を用いてプレゼンテーションのイメージが報告された。

(佐々木委員) これはウェブサイトで閲覧できるようになるのか。

(関委員) 可能である。配信もできるようにしたい。

(佐々木委員) 各写真の著作権については確認しているのか。

(関委員) 著作権を持っている人の氏名がデータの中に表示されるようになっている。

(石井委員) 写真に写っている歩行者の肖像権は大丈夫なのか。

(福井委員) 問題がありそうな作品については、フォトコンテストの審査過程で応募者に確認している。

3) 土木学会技術者資格制度について

(佐々木委員) 土木学会認定技術者資格制度に景観分野を加えることについて、平成24年11月に依頼書を提出した。担当の委員会がしばらく開催されていなかったが、来週開催されると聞いている。結果はメーリングリストで報告したい。

4) 学会による委員会活動評価関連

・横山幹事より資料8について報告された。

(横山幹事) A評価を受けるためには、2,500人以上の情報発信数が必要である。出版しないとこの数字には届かない。

(二井委員) デザイン賞の作品選集の販売数は該当しないのか。

(横山幹事) 一般の書店で購入できることが条件であると学会から聞いている。シンポジウムなどを開催する場合は、名簿を作成し、出席者数を把握できるようにしてもらいたい。今年も共催

がないと 500 人以上を達成できないので、ぜひ協力してもらいたい。

（佐々木委員）小さな会合を開催する場合でも、本委員会との共催を検討してもらいたい。

5) 平成 24 年度委員会自己評価結果

- ・横山幹事より資料 9 について報告された。

6 意見交換

（佐々木委員）土木学会誌で福井委員に景観・デザイン委員会の紹介記事を書いてもらった。学会誌では、各委員会の記事を毎月掲載している。土木学会 100 周年で各委員会の活動内容を整理する必要があるので、これらの記事を基にして書きたい。

以 上